京城新聞

桂樺録　不及生

▲待ち設けたる宮撲民長の撤廢令は來らずして待ち設けざる伊藤統監は將に來らんとしつゝあり候、吾人は今回の統監の歸任の比較的早きを思ふて一寸一番の念に打たれ候ひしも亦翻つて考へ統監が先々月歸朝の際本紙第二面の「□□たより」に於て昨今の炎暑を白砂青松の□に避け、中秋月圓かなるの交歸任さるべきか云々の記事に想倒すればタトヒ偶然とは申せ今更らながら其の歸任の時日について不審を抱く譯は無之筈に候而り公の歸任期は成程中秋月圓かなる九月十五日と東電、相傳へ申候

▲ソレにしても詰らぬ事とは云へ面倒を感ずるは曾禰副統監かと被存候、尤も這は巷間の[illegible]の説にて[illegible]りにあらず候も兎も角も吾人の耳にせる所によれば副統監には統監の出發後直ぐさま官邸を引き上げ統監邸に移轉いたされ候ひしが其の當時否な最近に至る迄も部下のものは宜く副統監の趣味好尚を押し圖りて一々御前に伺ひ室内の装飾品は申すに及ばず庭園の盆栽及び敷石の配置等に就て全然以前の趣向を變更し專ら御前のお氣に召すやうにと[illegible]れしとかの事に候が思へば幵は[illegible]ろ手數を煩はせしが馬鹿々々しく[illegible]ンにとりては例の氣六ヶ敷統監の持ち前の毒舌を弄して「曾禰の奴と[illegible]俺の留守に餘計ないたづらをして……」しなどと申されはせずやと今より氣づかひ居り候、然り待ち設けざる統監の歸任は唯に如上の一些事に止らず總ての點に於て待ち設けざる毒舌を弄されはせずやと被察候以上

●日本の牛疫と韓牛との關係（續）

第二　韓國の警察機關

社會の耳目たる警察は韓國に於ては未だ整備の極美を盡さずと雖も中央政府内部には警務局ありて全國の警務を統轄し其下に京城には警視廳各道には警察部ありて帝都及道内警務を分掌し警視廳及各道警察部の下には七十個所の警察署三個所の警察分署あり倘其配下には三百三十九個所の巡査駐在所ありて地方の警備に任ず今其配置の大要を表示すれば左の如し

道別	警察署	警察分署	巡査駐在所	計
京畿道	一〇	二	四〇	五二
忠淸北道	四		一六	二〇
忠淸南道	五		四〇	四五
全羅北道	五		二八	三三
全羅南道	五		三二	三八
慶尙北道	六		三六	四二
慶尙南道	六		三六	四二
江原道	五		二二	二七
咸鏡南道	五		一三	一八
咸鏡北道	五		九	一四
平安北道	六		二二	一九
平安南道	四		二〇	二四
黃海道	三		二五	二八
計	七〇	三	三三九	四一二

警察機關の配置夫れ斯の如く樞要の地方には警察署ありて警視若は警部並巡査を以て其要員となし主要の地點には警察分署若くは巡査駐在所ありて警部並に巡査を以て其の要員となし人民の生命財產の保護に任ずるか故に牛疫の如き猛烈なる獸疫の發生するあれは決して之を看過するの害なし然るに前記の會寧を除くの外何れの地方よりも牛疫發生の報告なければ韓國產には目下牛疫無きものと斷定するを得可し

第三　韓國の通信機關

社會の神經血脈たるべき通信機關は韓國に於て日本政府の經營に係り中央京城には統監府の所屬官廳として通信管理局ありて全國通信機關の中樞を把持し其配達電報電話及郵便を管理すへき局所あり全國に於ける通信機關の區分を表示すれば左の如し（四十一年三月一日現在）

局所別		局所數	電信取扱局所數
郵便局	管理事務分掌郵便電信取扱	八	七
郵便局	郵便電信取扱	三八	一三
郵便局	郵便取扱	五	
取扱所	郵便電信取扱	二五	
取扱所	郵便取扱	一一七	二
郵便所	郵便電信取扱	二一	九
郵便所	郵便取扱	五一	
電信取扱所		五一	
郵遞所		一六八	
郵便繼立所		一	
郵便交換所		七	
郵便受渡所		三	
合計		四九三	三一

斯の如く通信機關は全國各所に配置しあるを以て警察の耳目にあつて聽視したる感應は悉く通信機關たる神經に依りて中央政府たる腦髓に通達せらるゝを以て牛疫の如き流行性病の發生は忽ち警察と通信の媒介によりて中央政府の知得する所となるが故に決して之が發生を看過することなし

第四　韓國に於ける獸醫の配置

韓國内に於ける獸醫の配置は警察及通信機關に比すれば到底同一の論にあらず蓋し韓國には由來獸醫なく間々獸畜の疾病に對し治療を施す者あるも到底獸醫を以て目する能はず唯日本獸醫にして中央政府及各地方に在勤居住する者ありて獸疫防豫畜產事務獸醫教育屠畜檢查の職に從事す今倘各地に於る獸醫の配置を表示すれば次の如し

●賊徒討伐情況

△全羅南道靈巖守備隊軍曹以下九名は八月二十八日靈巖東方二里半寛大洞にて約百五十の賊と衝突し交戰三時間の後其十を殪せり

●外國貿易旬報（八月下旬關稅局調査）

輸入重要品表

品名	本年分	前年同期
食鹽	二〇、一六四	八、三三四
砂糖及精糖	三七、一〇〇	二六、二八七
清酒	八、八五七	一三、九四五
石油	三九、三六八	七、五〇九
打綿	八、三二四	一〇、八二五
綿糸	七一、八五五	八一、七五九
生金巾シーチング	二七、六四八	三四、四三〇
晒金巾	一四、八〇五	一九、二〇九
日本木綿	二九、八四九	二九、三二〇
麻布	三、二九九	二、三三九
絹布	五四、五七一	三一、三三四
紙	三、三〇〇	一八、三三二
石炭	九、三二六	六五、二九一
熟鐵	二六、六六一	三三、〇六九
烟草	七、七〇四	一四、四一九
木材及板（鐵道枕木を併す）	九九、八九六	三三、三三三
セメント及石灰	二、三〇三	七一、八三三
マッチ	三、三二八	八、五四〇

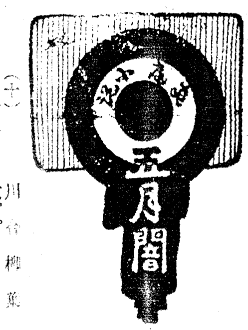
新刊紹介

●時代宗教　「時代の要求」「社會の強迫」「佛教に於ける愛の考」等讀むべきものとす（四十三號一部六錢東京麹町區上六番町時代宗教社發行）

●小學校　以前より表紙の意匠も巧みとなり内容も豐富となれり（三年九號一部十錢東京神田大日本小學會發行）

●明治學報　明治大學の機關雜誌なり併し更に振はず彙報を除きての記事は僅か一種とは情無し（百二十八號一部十二錢東京神田明治學會發行）

●銃獵界　有益なる記事數種中に就て「銃獵一夕話」を大なるものとす（四卷八號一部十錢横濱金丸銃砲店發行）



（十）　川合柳葉

「まあ貴方眞個奥樣は被在らないのですか私唯々然う有仰つたけれど、必然れ斷しなさるんだと思つて居ましたの。」



安心した如き調子でれ君が云へば。

「なんで嘘言なんか云ふものか、眞個この通り耳の遠い婆さんと二人きりだ、これで疑は霽れたらう。」

「……」

云つて其の顔を見れば、何とも云はず、唯ニコ〳〵と笑ふて居る。

「ところで昨夕還々話した一件だがね、れ君さん定めて可厭であらうね、可厭なら強いてと云ふ理ちやないが、可厭でなかつたら承知して下れると、寔に願つたり協つたりだ、まあ能く考へて返辭を聞かして下れ。」

「私昨夕還てから考へましたが、私のやうなヤクザ者でも世話をして遣らうと有仰る御親切がありますなら、こんな結構な事はございませんけれど。」

と、一寸首ひねて、

「昨夕のやうな大それた事を御存じですから、必度れ可厭になるは知れて居ますゆゑ、それを心配致しまして……。」

ざと山川の顔を見れば、

「昨夕の事……それが心配だハヽヽ、昨夕の事なら何も心配なんかする事はない、私がれ前さんに女房になつて下れと云ふのも、昨夕宇治川堤の手際を見て、れ前さんの度胸に惚たからだ、あの手際を見なかつたら假んばれ前が何程美しい女でも、一生連添ふ女房には異存だ、れ前さんの方からどうぞ山川さんと持ち掛けても平謝りに御免蒙むる、アハヽヽ。」

れ君は怪訝な顔をして、

「それはまた奈何云ふ理でございます、奈何云ふ理で貴方程の方が、私のやうな根性の曲つた女を、それほどまでに親切に云つて下さるんです。」

「なる程こりや然う疑ひさうなはずだ、しかし」

と、聲を潜め、

「人を殺す程の女と承知して、其の度胸に惚て女房になつて下れと云ふからには奈何いふ理由だと理由を話すまでもないだろう、鬼の女房に鬼人がなるなら、鬼人の夫に鬼がなる道理、豈夫に佛性の男なられ前さんのやうな女を、好き好むで貰ふ馬鹿もあるまいから、まあ〳〵そこらで好加減に察して貰はうか。」

「なる程よく解りました、私程の鬼劍を折つて遣ろうと有仰る程の貴方、左や右聞いたは私が野暮でございました、それさへ御承知の上となら、不肖ながら宜しくれ願ひ申します。」

「いや早速承知して下れて難有い、實は今朝の一番で大阪まで行く約束になつて居るのだが、花嫁さんを貰つて見れば、貰ひ早々出られもすまい、電報でもつて斷つて置いて、今日は寛り末を固めの祝言事でも爲るとやう。」

「何だか極が惡ふございますわ、嬉しい。」

「フム、人を馬鹿にしてらあ、極の惡いと云ふ柄はモウ少々柄が違つてるよ。」

「だが、縁といふものは可笑なものですさね、何が奈何して縁の端になるか知れやしませんや。」

と、山川の顔を見て嬉しさうに莞爾。

京城新聞

再び監獄の改良に就て

(附三浦理事官に答ふ)

八月廿七日の紙上に於て監獄の改良を論じたるに三浦理事官は事實相違の廉ありとて書を寄せられたり、冒頭に於て「監獄改良の論旨に對しては何人も異存あるべき筈なしと雖も斯る具体的の問題を論議するに當りては [illegible]

[illegible]

會を開設すると云ふにあらずや、何ぞ夫れ表面に顯現するものゝみに重きを置きて、監獄の如き裏面的重要の問題を輕視するや、斯くも之を玄關式政策に非ずとする乎、伊藤公の如き人道を常に說く政治家にして監獄改良の人道問題に何んぞ冷淡なるや、斯くて治外法權撤去に熱中するとは [illegible] 皇帝の美麗なる馬車行列、博覽會の祭禮騷ぎ等は、寸毫も治外法權の撤去に効力あるものに非ず、只之あるものは裁判制度の完備警察の改善及監獄の改良等なり、伊藤統監と雖之等三者が治外法權撤去の要素たるを知らざるの理なし、否知り居ればこそ已に裁判と警察とに向つては相當に手を附けたるに非ずや、果して而らば今日に於て何を苦んで偏り監獄とのみ [illegible] 保護政治の公體として [illegible] を敢てするや、而れども何事を爲すにも先立つものは金なり、[illegible] すれば當局者は宜しく [illegible] の不急なる費目を省き [illegible] に二十萬圓許りを計上し [illegible] 首都に相當せる模範監獄を [illegible] 許り、而して後漸次地方に及ぼすの方針に出でんことを至當の措置と信ずるなり、當局者或は云はん、新獄舍は已に [illegible] 建築せられありと、[illegible] すれば右新獄舍は [illegible] の獄舍に比して [illegible] なるべしと思はるゝも [illegible] を認むる能はざるなり、

[illegible] 統監及其他の保護政 [illegible] く考慮して余輩の言の美のみを發揮する [illegible] 氣附かざる暗黑の方 [illegible] 表裏共に併進せる [illegible] とを誠意以て勸告す

東京電報

●間島問題談判

數日前支那政府より間島問題に關する長文の證據類到著したるが日本政府にては之を反駁するに足る往古よりの證據を取調べあるに付伊集院公使赴任と共に談判開始せらるべし(五日發)

雜報

●皇太子よりの來電

日本御遊學中の皇太子より皇帝に對し一昨日左の電報ありたり [illegible] らるゝ事を詳 [illegible] 恐懼の至りに堪へ [illegible] 勝希くは陛下の宸慮 [illegible]

伊藤統監

●伊藤統監の [illegible]

[illegible]

●統監の興津滯在

伊藤統監は四日興津に來り井上侯の病氣を見舞ひ午後大磯に歸り更に午後三時出發興津に至り當分同地に滯在せらるゝ筈なり

●李址鎔氏封君說

前內部大臣たりし中樞院顧問李址鎔氏は君號を賜はるべしとのことは曾て報せしが愈よ近き中に封君の御沙汰あるべし尙此外に三四の封君あるべき由なり

●愛國婦人會の獻品

去月二十七日は韓國皇帝即位一ヶ年紀念祝日に付愛國婦人會韓國本部にては敬祝の意を表する爲め小宮三浦兩副長は在韓國會員を代表し參內祝詞申上尙美麗なる花籠(東塞付)を獻納する筈にて目下東京三越にて謹製中なりと

●勅令の裁可

一昨日左の勅令其の他御裁可ありたり

一、東洋拓殖株式會社創立委員旅費に關する件

一、法語敎師馬太乙細聘契約の件 但し隆熙三年一月一日より向ふ滿二年間

●城壁處理委員會廢止

全國各地の城壁處分は度支部內部軍部の官吏にて組織せる城壁處理委員會に於て取扱ひ來りしが今回彌々同會を廢する事となり右の事務は內部の所管とし地方土木の兩局に於て處理する事となせりと

●丸山重俊氏出發

警視總監より島根縣知事に轉じたる丸山重俊氏は昨朝八時四十分南大門發列車にて歸朝の途に就けるが曾禰副統監長谷川大將各大臣次官其の他日韓人官民等多數の見送人あり尙警視廳管轄の非番巡査一同もプラットホームに整列して見送りをなせり

●拓殖委員の渡日行程

東洋拓殖株式會社韓人側創立委員三十三名は本月七日曾禰副統監の訓示を受け八日川上農商工部書記官及び小山光利氏に引率せられ出發渡日する事は昨報の如くなるが今其の行程の豫定を聞くに八日午前八時四十分南大門發途中馬關大阪靜岡に各一泊し十二日東京に着する筈にて東京にては一同木挽町の厚生館に投宿する事となり居れりと因みに委員三十三名中五名を除くの外は何れも渡日は初めてなりと

●副統監の仁川視察

豫定の如く曾禰副統監一行は昨日午前十時三十分特別列車にて仁川驛に着し信夫理事官、富田民長、宮楯警察署長は栂峴驛迄出迎をしたり一同は下車後特別仕立の人車に乘り信夫理事官先導にて仁川停車場を海岸埠頭に左に水產會社に立寄り同會社員雜場を見水產に干する簡單なる質問をなし直ちに本町通りに出で宮町通りを日本公園に至り參拜次に小學校病院第二小學校幼稚園を回覽せられて山手なる鮮樓に入り午餐をなしたるが時に午後一時過頃なりきかくて第二來賓は一時五十分仁川驛に着する旨通知ありたれは一同は直ちに海岸に出て舟遊艦宮丸に乘込み舟遊用品諸者等を積込める團平船、艀一艘を曳き錨を拔いて港外に向ひたるが舟遊中の摸樣は知を得ざるも豫定の如くんば舟中の接待は藝妓五名を同乘せしめ酒間を斡旋せしめたる外極めて簡略を旨として旁々宮本稅關長、富田民長及信夫理事官等は港灣の狀態を詳細說明して充分なる視察を乞ひたるなるべしかくて一同は午後五時上陸し其れより山樓に於ける官民の大歡迎會に臨席したるが午後十時頃散會したり

●愛國婦人會の慰問

愛國婦人會韓國本部に於て

▲討伐軍慰問　暴徒討伐軍隊憲兵及警察官慰問に對し先般來東京本部及各內委員部に照會して慰問金品の取纏めに盡力しつゝあるは既報の如くなるが東京本部にては討伐に從事せる諸氏に對し熱心同情を表し理事評議員に於ても此際成るべき多數の慰問袋を寄贈する筈にて目下其の準備中なるが府縣各支部にては本會より割當に依り夫々慰問袋の徵收に務め慰問袋は一個十五六錢より四五十錢迄を隨意とし地質の久しきに耐へ得る袋に必要品又は紀念となるべきものを選定することゝし又右に準したる金員寄贈の分は特に紀念繪葉書として寄贈する筈なるが內地各支部及韓國各委員部とも夫々の役員奮て盡力中なれば今月中には豫期以上の成績を以て討伐諸氏に滿足を與ふることを得べし

▲慰問繪葉書　討伐諸氏慰問の爲め韓國本部に於て特に三越に注文して調製しつゝある繪葉書一枚は總裁閑院宮妃殿下の御肖像に花柳橫の意匠を凝し一枚は伊藤統監長谷川軍司令官の寫眞に李花の意匠を添へ岩倉本會總裁原本部長の丁重なる慰問の辭を添へたる二枚一組のものを二萬三千餘名に配布寄贈する筈なりと尙右慰問金品の寄贈方に關し京城管內役員會の有志よりの取纏めに就ては近日本部役員に於て協議の上夫々通牒する筈なりと

▲豫告▼

韓國經營上偉大なる貢獻を爲すべき使命を有する東洋拓殖會社は近々成立せんと致し居り候、在韓十有五萬の吾人同胞は申す迄もなく千有餘萬の韓國民も等しく同會社の成立を歡迎致すことゝ存候、依つて本社は此の際を機とし、日韓諸名士及び實業家が同會社の事業に對して懷抱せる高見を叩き順を追ひて日々の紙上に掲載し以て同會社關係者及び公衆の參考に資せんとするの考へに御座候、冀くは掲載の日を俟ち幸に精讀之あらん事を

右謹告仕候

京城新聞社

●代議士招待會

既報の如く當地有志者の企に係る大內、細瀬兩代議士招待會は一昨夜巴城館に於て開催せられたり會する者兩代議士の外京城民團前議員及有志諸氏大韓日報朝鮮日々京城新聞の三代表者等にして始めに發企人より兩代議士に向つて歡迎の辭を述べ次に細瀬代議士より官選民長問題に對する氏の意見を述べられ了つて互に胸襟を披き官選問題に關する今後の運動方針を議して散會したるは午後十一時頃なりしと云ふ

●漢城衛生會

漢城衛生會は明七日午前十時を期し內部に於て第四回評議員會を開催する筈なり

●避島水道の燈臺

關稅局にては今回韓國西岸大同江避島水道の北側避島及び同水道の西方鷄島に燈台を建設し本月一日より照燈せしが避島燈台は第六等白色不動燈にて燈火の中心は高潮不均水面より高さ二百尺にして晴朗の夜は水面上十五尺の上にある觀測者は六海里の距離より此を見るを得べし又鷄島燈台は第六等綠色不動燈にして燈火の中心は高潮平均水面より高さ百二十三尺なり晴朗の夜は水面上十五尺の上にある觀測者は三海里の距離より之を見るを得べしと而して冬期結氷中每年一月十五日より二月末日までは點燈を停止せりと

●韓人警部採用試驗

內部警務局は本月十四日韓人警部採用試驗を執行する由にて志願者は一般より募集する筈なりと

●賊徒討伐情況

△黃海道溫井院分遣隊は八月二十二日井院北方二里廣坪に於て賊四十と戰ひ其五を殪し銃器を鹵獲す△九月三日約二百の賊徒咸鏡北道明川に來襲し戰鬪五時間の後之を擊退す賊の損害不明我守備隊長下士一重傷を負ひ卒一輕傷△仁川警察署巡查は八月廿九日憲兵と共に通津郡內に於て約二十の賊を討ち之を潰亂せしむ賊の死二鹵獲品銃三軍刀一雜品若干あり△全羅南道潭陽守備隊は警察官憲兵及同補助員と共に八月十八日潭陽郡內にて約三十の賊を討ち其四を殪す△間島下泉坪憲兵分遣所の憲兵は同地附近にて二名の賊を逮捕せり

●獨人處刑に就て

獨乙總領事ウエンズー氏が治外法權を利用して韓人に賭博場を供給したる獨乙人を處分したる事は昨報せし如くなるが右は日韓官憲より其處分方を照會したるものに非ず同總領事が先日の新聞記事を讀み進んで事實の眞相を探り此の處分をなしたるものにして韓國官憲は同總領事の處分に好意を表し居れりと云ふ尙右の獨人の外韓人に賭博場を供給せる外國人は二三名に止まらざる由にて當該國總領事も此れが取締をなすならんと

●平安南道の害虫發生

未曾有の豊年を悅べる矢先き平安南道龍岡郡にて稻田に害虫發生し今日迄に其の被害面積二千百九十六斗五升落に及び農民一般に憂慮し居れる由にて農商工部は技師を派して豫防驅除の途を講ずべしと云ふ

●秀山洞狀況

咸鏡南道秀山洞は高原邑より平安南道陽德郡に通ずる街路に當りて戶數約二十七戶人口百二十人にして村民農を專業とせり而して高原郡は南文川郡北永興郡西平安南道寧遠郡陽德郡に界す東西南北約十八里南北約九里に跨る且つ秀山洞は邑を去る七里文川邑を距る九里村落の南を流るゝ高原川あり水源を尾老乙嶺に發し村民の過半は川水を飲用せり水質最も良好なり產物としては燕麥粟類若干を產出する耳也

●長興水害の狀況

去月二十四日以來の降雨にて長興地方に於ける損害の狀況を聞くに長興東門外を貫通する東橋川氾濫し磧に建築せる市場用小屋六十三棟流失し常に寢食し居たる乞丐三名は行衞不明となりたり浸水家屋は日本人二戶韓人三十三戶其他墻壁の潰倒せしもの多數あり田畑の損害は多大にして目下取調中

●警備電話開通

平安南道价川德川間の警備電話は九月二日より通話を開始せり

●撰擧名簿作成

當民團役所にては一昨日選擧者名簿を作成し昨日より一般の縱覽に供し居れるが其の數二千十五名也と

●永登浦居留地の昨今

永登浦居留民は本春來役場派と矯風派との間に軋轢を生じ遂に總代役場の解散となり更に理事官より六名の委員を指名されたる以來四ヶ月に及ぶも何等擧ぐる事跡もなきは同地の爲め嘆ずべき次第にて各居留民に賦課せし課金の如き殆んど納まらず滯納者續出する有樣にてこれが爲め更に三百圓の負債を生ずるに至りたるが今後とも納入の意思更になきが如しと云へば將來に於ける永登浦の爲め慨すべきの至りなり尙ほ役場派にて牛耳を取つたる瓜生鐵哉氏は任期中委員を辭して農業に從事し居れりとの通信ありたり

●明石少將一行

北韓視察中なる駐韓憲兵隊長明石少將、統監附武官村田少將の一行は雄基灣より淸津に上陸し七日迄同地に滯在し十一日元山に着し陸路京城に向ひ歸任の途に就くべしと云ふ

●警視の地方巡視

內部警務局巡視係り齋藤警視は南鮮地方に岡永田警視は江原道地方に何れも近々出發視察の途に上る筈

●大橋囑託歸任

赤十字、東洋協會、愛國婦人會の用務にて東上中なりし大橋統監府囑託は昨日午前歸任せり

●韓官任免

奎章閣大提學　金鶴鎭

依願免本官

中樞院奎章閣大提學叙奏任官一等　從一品　李容稙

任南原郡守叙奏任官四等　道事務官　尹晶鉉

任龍川府尹叙奏任官三等　前郡守　金祥演

任成川郡守叙奏任官二等　南原郡守　朴台榮

●近事片々

▲副統監が仁川稅關員に面接して京城稅關員に面會せざるは偏頗の所爲也との批難あり

▲是に對し御用紙辯じて曰く京城稅關員には石塚參與官が二時間餘も面接したる由と

▲故に殊更に副統監が面せざる迄決して偏頗の沙汰に非ず一視同仁なりとは面白し

▲一方に謝絶し一方には快く面會す斯くて一視同仁とは些と論理が合ひ不申と存候

▲若し同一に同情あらば假令石塚君が面會したり迚更に引見懇談するが至當と存候

▲間接に聽くと直接に聞くとは其間自ら大なる差有り民意を古來明君は好で引見す

▲信夫三浦の兩理事官優劣の談は稍々世上の注意を惹き來れり果して何れが優なる

▲然るに信夫君が眞面目に謙遜的の辯解をなす由來官界の人には神經過敏の人多し

▲三浦君と信夫君世評は區々なれども大低其眞價は判明し居る也人皆云はざるのみ

▲信夫君は霞ヶ關仕立也從て圓轉滑脫の所あり在留民との關係に於ても知るべき耳

▲英國外相グレー氏埃及の代表者に面して國會開設の速ならん事を望むと言明せり

▲自由黨內閣の對埃策も之に依りて知るべきなり標度磊々コセ付かざる所甚だ好し

▲流石は憲法國の本家斯の如くにして大方針は毅然として動かず英の成功茲にあり

▲大博覽會の延期に依りて會長金子堅太郎子は憤然辭任して遂に許可せられたりと

▲伊公先頭第一子に於て大氣焰を吐きたる當時直參の金子を痛罵して馬鹿野郎と云ふ

▲金子子爵元來君子然たる殿樣風なるも人格甚だ小惟ふに秘書官的の人物ならん乎

▲桂內閣が大博覽會延期を東京市民に協議せざりし迚市民大に憤激せりと是亦當也

▲財政整理の結果延期するはよしされど大關係ある東京市民を出し抜きたるは不可

▲大博覽會は素と是れ東京市民が本位也其本位たる市民を度外視せるは最も不埒也

▲頃者徵兵忌避者增加するの傾向ありて一葉落て天下の秋を知る輕々看過す可らず

▲徵兵忌避者の增加は國民に不健全なる思想の蔓延せるに基因せざる乎戒愼すべし

▲社會主義の如き不健全なる思想の漸次國民に感染するに至らば由々敷大事ならん

▲敎育の局に當るものは常に健全なる思想を吹込むべし不健全の學說に迷ふ可らず

▲帝國主義に依り健全なる思想を養はざる可らず日本の强さは此思想の發揮にあり

●死して宇宙を解す

▲釜山の藤村操 ▲釜山沖に投身

「余は宇宙の根本を究めんが爲め當港水深き處より投身し冥府へ旅立す云々」と神に誓ひて蒼海千仞の底をも測り知られざる釜山沖に投身し終に海底一片の藻屑と消へ去りし釜山の藤村操ともいふべき男現はれたり今詳報を得たれば左に報せんに

去月二十九日仁川より汽車にて釜山に赴き同地の大池旅館に[illegible]せし一人の旅客あり右は當日旅客は晩餐を認むるや否や何れへか外出し深更に至りて歸宿せしが又翌朝何れへか外出し頓て再び歸り來りしも又々晩餐後散歩にとて何れへか出て行きしまゝ其の夜は終に歸り來らず翌朝歸宿せしが其時は別に變りたる容子も見ねざりしに又々晩餐後フラリといつもの如く出て行きしまゝ歸宿せず依て旅宿にても不思議に思ひ居りしも或は遊廓へでも流連し居ることゝ差して氣にも留めざりしが其の中東京より旅館に宛て一片の電報舞ひ込みたれば帳場は急ぎ披き見しに「オクムラセフイチオサヘトメタノム」との電文なるより役に始めて不審を起し本人の身元等を調べんものをと早速警官の立會を乞ひ手荷物の旅行鞄やら行李等を開き檢め見しに圖らずも大池旅館主と警察署長とに宛て一通づゝの遺書現はれ出でしより事は意外に大袈裟となりたるがサテ此の遺書を認めたるは多分三十日の晩一寸旅館に立ち歸りたるときに認めたるものなるべしといふ左に遺書の全文を掲ぐべし

不可解の點は死して始めて解決す西藏は山河らかにして靈氣多き仙界なり彼の地を卜し死を遂げんと遙々故國を出で道を韓國に取り滿洲を經て遂次目的地に達せんことを期しぬかくて渡韓後義州或は仁川と各地にて途を求むれども津々浦々の警戒おごそかにして意を果さず遂に仁川港なる月尾島の月を眺めつゝ死なばやと最後の心を定め二日間此處彼處と死場所を尋ね見しも地勢水淺くして適當なる場所見當らず遂に彼の地は余が死に向つて不適當なる地域と思ひ返して再び此釜山へ流込み滿正公神社より西南の海水深き地を相し投身成佛致候に就ては暫時の間たりとも貴館にて足止め致し種々御世話を受けしことも不顧却つて御迷惑を懸け申候段小生の心事御推察の上足下の寛仁の思召に依り幾重にも御用赦被下度願上候宿泊は二晩と盃食二度外に小物色々有之候間御預け申上候金拾圓の内より御引被下度萬一不足は警察の御方へ御詫し被下度不足の場合には小生實家の方より皆濟可仕候也

二伸 私は決して悖德行爲無之、愧事も無之、痴情も又無之

名譽ある大池の御主人樣　　奧村

宇宙は宏大無邊の里面り余は宇宙の根本を究めん爲め當港水深き處より投身冥府へ旅行す之れ余が天より受けたる運命の期間なり、凡そ命の數は抽象的に算する平均命數なれば生存期間の長短により其の眞價に異動あるなし、余行年三十悔る事なく成佛せむ聰明なる官廳の諸氏よ幸に我意を明にし死後、法に依り取扱を依頼す

　　奧村

御迷惑相懸申候段大池其他の人々に向つて謝罪す

　　奧村

釜山警察署御中

此の遺書に依りて旅客の姓は『奧村』と判明せしもサテ此者が旅行せし系路は悉く知る能はざるも新義州より仁川に至り同地の丸屋旅館に一泊しソレより二等列車にて釜山に赴きたることは旭屋旅館の受取書及び汽車の切符等にて明白なりといふ因みに大池旅館にては同旅客がいつもソワ／＼として忙はしさうなるより帳場も原籍姓名等を聞くの機を逸し爲めに宿帳に記載なかりしといふ

●魔睡藥を用て大金を奪ふ

犯人は邦人賣藥行商
被害者は韓人旅舍主人

本邦人賣藥行商永田某白井某の兩人は韓國內地に入り込み忠淸南道永同方面を根據として賣藥の行商をなしつゝ居れるを以て同地の客主などは自然知り合となり居れる爲め去月二十五日頃も同地に來り韓人旅舍たる朴某方に至り四方八方の話しの末兩人は朴が有福なるを見て慾心を起し相談の上モルヒチの如きものを取出し朴に與へたれば朴は之を見て多分砂糖なるべしと信じ何の疑ふ所なく服したるに忽ち昏睡したれば兩人は互に顏を見合せ心の中に喜び貯へありし砂金を奪ひたるのみならず奧に仕舞ひありし金庫を破り此中にありし紙幣數千圓を奪取し逃走する際家人に認められしかば携へたる刀を拔きて之を威嚇し遂に逃走するに至りたり朴は夢の如くに昏睡狀態より醒めたるときは既に兩人とも逃走したる後なりしが此の旨最寄の警察署に訴へ出たれば太田警察署に於て嚴探せし結果去月三十日兩名を捕へたるを以て直ちに兩人が居住地なる大邱警察署に宛て護送したりと云ふ

●人身賣買一件

由來韓國は人身賣買の行はるゝことは人の知る所なるが茲に西部北門洞に居住する趙某なるものゝ中部水典洞居住李聖五の妾を誘拐して之を清國人徐南相と云ふものに賣渡したりとて李より中部警察署に訴へ出たり又北部玉堂居住金顯吉は中部許屛居住李致湯の娘を妾にすると稱して連れ出し仁川居住の金某に金百四十圓にて賣渡したりとて之又李より北部警察署に訴へ出たれば同署より金を捕へ取調べ中なり

●果して事實か

去る三日の夜九時頃韓人警部一名は同巡査一名を從へ美洞の妓生萬蘭の家を訪ひたるが其際萬蘭は外出して不在なりしが警部等は何ど思ひしか忽ち家內に突入の窓戶を破碎したる上妓生の老母を毆打する等の亂暴を働きたりと果して事實とすれば怪しからぬ警部といはざるべからず此の如き警吏は宜しく免官すべき也

●不埒なる韓巡査

京畿道驪州郡駐在の韓人巡査は駐在地各村落に於て村民を脅迫し家鷄及び米穀等を强取し已が口腹を肥し居るを以て村民等は此等巡査を見ること虎の如く恐れ居れりとのことなるが事實とすれば官名を有する强盜といふべしと同地より通信ありたり

●自然主義一方の男

旭町一丁目の出湯附近のオンドルより毎朝或る會社に通勤する二十七八才位の洋服姿のハイカラは當世の若者に似合はずシミツタレにて同僚仲間でも殆んど相手にされぬ程の男なるが其の癖此の男ドウいふ都合か女には目がなく今迄も毎月々給を取るが早いか太平町通から本町一丁目裏あたりの淫賣屋に至り何も飲み食ひせずに唯目的を果たす一方にて滿足し居りしが丁度先月三十一日の月給日に奴さんホク／＼もので亦今晩も行けるなど社を退けるや否や洋服の釦を外す間ももどかしく夕飯をカツ込んで早速家を飛び出し馴染の本町一丁目裏通松の廼とかいふ淫賣屋にいたり例の通り酒も肴も取り寄せず只管情約實行の時間の來るのを待ち構へ居りしに相手になるべき筈の女が何れへか外出して顔を出さずトウ／＼二時頃迄も待ち居りしも一向座敷に來る模様なき程があると果ては莨をバス／＼ふかしながら立腹し主人に其の不都合を詰りしに主人は却つて怒り出し料理屋へ來て酒も肴も取らぬ野郎に文句を言はれて堪るものか今迄は默つて言ふことを聞いて居たれど今晩からはさうは行かぬソレどころか席料を出せもし出さぬと訴へるぞと言はれて奴さん俄かに震ひ上り大枚一圓をフンダクられてコソ／＼と家に歸り來り一圓の損失を今に悔み居るとかいふ

●娘を迫る

何んぼ肉慾に渇いた奴なればとて我が子に迫る奴もマツ世間類がないだらう併し世はさま／＼色んな獸物見たよな人間があるから不思議なものだ尤も此のやうな奴は人間の皮は被つて居れど多分ヒ、か何かの生れ代りには相違ない爰には名丈は特別寛大の情けを以て掲げぬが何んでも處は壽町一丁目で職業は表具師とか聞いて居るが此の家の主人は今年取つて五十位になる中老爺なるが此の爺さん却々の助的にて宜い年をして此れ迄も女の爲めには大分小金を注ぎ込み屢々連れ添ふ女房より愛想を盡かされしこともありしが持つて生れた病は[illegible]にて[illegible]らず、女の姿さへ見れば直きに春情が催ふすといふ有樣殊に近頃は此の病一層甚だしく殆んど一種の色魔狂ともいふべき程なるは實際手の着けやうのない厄介老爺なり所で爺さんの女房が先頃來よりある病氣にかゝり龍山病院に入院せしが老爺さん此の女房の不在をつけ込みて今年十六才になる自分の養女に挑みかゝりトウ／＼出齒つて了つたか頓て女房は病氣全快したれば無事龍山より家に歸り來り近所のものより此の噂さを聞いて大に驚き爺さんの胸倉掴んで此人面獸心の禿げ頭奴と二三度コツきしに老爺さんスツカリ閉口せしもソレは表面丈にて更らに煩惱の夢さめずヤハリ娘に關係し居るとかいふ

●八月中傳染病統計　八月中に於ける京城にある本邦人の傳染病患者は發生三十四名にして全治六名、死亡七名內利痢十五名腸窒扶斯十六名、天然痘三名なり

●ヨボの亂暴　西部水閣橋統戶不詳李石伊（三二）は昨日午前十一時會洞市場にて菁根商裵命奉を打擲したため南部署へ引渡されお目玉くつてコソ／＼引下りたり

●科料　長崎縣生れ當時南部水標橋通一丁目二番戶飲食店川原米次郎（四二）は去る五月廿五日愛媛縣生れの本岡京（十九）を酌婦として雇入れ乍ら先頃まで何等の屆出を爲さゞりし廉を以て銅峴分署に召喚され散々のお目玉を喰つた上五十錢のお灸

●又々科料　兵庫縣平民本町一丁目裏通飲食店長谷川清一（三十）は去月廿二日來りし龍山の菜より浴衣と兵兒帶を飲食代一圓九十錢の代りとして其筋の承認を得ず受取りたる事及び去月十三日長崎縣士族松田チヨ（三三）及び福井縣平民三田村キク（二三）酌婦に雇入れながら屆出さりし不法行爲により科料一圓五十錢に同所飲食店土井萬次郎（三四）は去月二十八日登樓の客を宿泊せしめたる事と去月十一日神奈川縣平民石川テウ（二〇）を雇入れ屆出を怠りし處より同しく一圓に何れも科料に處せられたり

●藝妓の科料　新町二丁目第二種藝妓神奈川縣平民大塚マツ（二三）と千葉縣平民小原ハナ（二二）の二人は去月廿八日許可を得ずして南大門外に居る好やんの方に行つた爲め科料一圓五十錢宛に處せられたり

●傳染病患者在院數　靑坡病院に於ける傳染病患者は總數十四名なり

●倭城臺奏樂　本日午後六時より例の通り倭城臺公園に於て軍樂隊の演奏あり其曲目は左の如し

一行進曲 [illegible]（[illegible]ル作）
一歌劇 リゴレット（バルヂー作）
一端歌 春[illegible]
一等曲 六段の調（軍樂隊）
同 一ワルツ 愛情の天使（ブリーゼル作）

●西本願寺　長谷川町西本願寺にては本日午後八時より伊藤開教使の說教あり

●メソヂスト教會　旭町二丁目名古屋城內日本メソヂスト教會にては本日午前十時より左の說教あり參聽隨意なり

基督教は天下の正道なり　辯士 ピーシー博士　通譯 飯島文學士

午後七時半よりは左の說教あり

我父の旨　辯士 會田嘉伊智氏

●有明樓の開業　壽町三丁目の有明樓は此迄家屋狹隘なりし爲め多數の會席等に差支へしを以て先頃より永樂町三丁目赤門通に新築中なりし所此程落成したれば二三日前移轉開業すると同時に料理等も專ら精撰し來客の待遇等大に改良し花客の需に應ずと云ふ

●本町座替狂言　同座本日の替狂言は「孝不孝」にして其配役は左の如し

墨染金次（田宮）令嬢初子（一井）遊人銀次（石巻）情婦れふじ（今井）子分吉公（伊藤）刑事山村（葉山）仲居れ島（堀江）清水太郎（南鄕）清水三郎（中川）子分辰（松本）新地警部（小泉）堤村長（秋山）巡査大田（秋岡）火の番竹（喜多）清水次郎（峯松）車夫金藏（島村）清水長右衛門、若林公證人（白川）

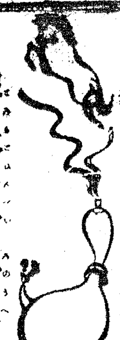
（平）（民）（文）（庫）

▲韓國婦人に美人の少ないのは何か原因の存するなくんばあらず尤も美人の標準を一定することが前決問題たるには相違なきも（へ山生）▲諸君は浮世に超越し得ざるが將た欲せざるか小生は現世に超越して生ける神になるよ活目して居たまへ（キリギリス生）▲美人は女に多からず否婦女子に向つて美な人を求めんとするは誤れるものなり美人は何處の國に於ても男子を除外して得る不能（物知生）▲本町二丁目の花チヤンは永樂町の三太郎に熱々グナ（平可通）▲僕は娼業を持たぬフラ／＼者なるにつき男妾に入り込みたいが口はありますまいか（力作）▲伊東は上手者で白川は朴訥だ（みいちやん）▲韓國積年の汚物がいよ／＼來る十八日から掃除はれるさうだ（牛の角）▲にしきの五郎姐[illegible]妙な目つきをして何所を見て居るの（ヒンガラ）▲桧葉はナカ／＼繁麥丈は買く喰はせるが客を待たせるのが恐い（煙草盆）▲明治町のさあちやん明日役所へ行きませうチ（仲善し）▲鐘路の大通りに撒水したら宜いだらう何うか昨今の砂塵は（郵便配達）▲金風漸四邊の風物轉た蕭殺と來たか大に活動すべしだ（新進者）▲朝鮮人は悠長で支那人はしつこい（アラビア馬）▲貴紙連載の朝間の話しはナカ／＼面白いですチ（新町の對間）▲白川劇の連中シツカリ頼むせ餘所に負けるな（引幕）▲オイ／＼南門湯の近所の床屋さん時節柄消毒を頼むせ（角刈り）▲朝鮮の烏は黑いせ（カチ／＼生）

●天氣豫報（自五日午後六時至六日午後六時）

北又は東の風曇[illegible]

五日午後六時各地氣象概況　北又東の風吹き概ね曇天にして北部は所により降雨せり



講談 **富本半平の身上**（九）

するぜ吟中は今起きたばかりと見えて楊枝を口にくはへた儘鳥渡手前の顔を見ましたがやア此りや珍らしい大分早いぢや無いかマアノ\此方へと相變らず愛想が宜い其處で手水を使つちまうのを待つて火鉢を中にお極りの挨拶を濟ましてサテ金策の一件に取り掛つて見ると吟中は頭腦をかきながらそうか夫りやア困るだらうといつて俺も實の所今日は文無しで來て居るからよわつたナア……少し考へて居る樣子でしたが急に[illegible]金なら直ぐ間に合はせてやらうといふのでそいつア有り難いが然し夫りやア間違なからうぜと此方は多少氣掛りでムいますから念を押すと吟中は大丈夫親船に乘つた氣で居るが宜いと大呑込然し其大呑込が美事グレハマに往つたのですから餘程可笑しうムいます何にしてもお前さんが大丈夫だといつて請合つて與れるのだから先づ安心だが一體其金は他所からでも借りてくれなるのかと聞くとうよ今もいふ通りてヽには持つて居ないから借りるのには違ないが其借りる所が普通の家で無いのだから間違なしさと何處までも落ちつきはらつて居るヘイ普通の家で無いとは變な話だがと手前は何だか腑に落ち無いするとヘッお前でも無い氣が聊いナ極つてらアなレコの所からサと吟中は小指をコッカせて少し反身に大得意でムいます成程そう聞て見ると此奴は如何やら出來そうに思はれましたからね手前は吟中を急立て二人乘が宜いだらうといふのを夫では遲いからと一人乘二臺誂て吟中の家を出る時大方手筈を極て新橋の或待合へと威勢宜く馳付ました。

吟中のレコといふのは新橋もよりの或料理屋に勤めて居る女中で此の待合は其の女の親類といふので何時も吟中と落ち合ふ宿になつて居るのだらうでした小金を持つて居るので小遣ひに困ると吟中は何時も此處にやつて來ては其女中に呼び出しを掛け何程かせしめては返りノ\する其傳で其日も使を走らせて見ると當事を何とやら向ふから斷れて歸つて來た使が如何もお氣の毒さまですが彼の女は病氣でツイ二三日前實家へ養生に歸りましたとの口上なんです吟中が力を落すより手前が夫れを聞た時の心持といふものはありません思はずヘッ病氣で歸つた……といつたなり溜息を吐いて腕を組んだ儘ガッカリとなつちまいました吟中も大弱りでそうかそいつア何にしても困つたが……其實家といふのは何處にあるのかお前さん聞て來て下すつたかと使に尋ねて見るとヘイ其處に如才はありませんから聞きたゞしましたが只深川とばかり町名番地も判りませんといふのです

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金卅錢 ▲三ヶ月前金八拾錢 ▲郵稅一ヶ月卅錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲廣告五號活字十九字詰一行金二十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西小門通 京城新聞社